

研究機関：広島大学

研究課題名	僧帽弁手術時に施行する左房縫縮術の効果評価
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也
研究期間	2022年11月29日(倫理委員会承認後)～2030年3月31日
対象者	2019年12月～2024年3月の間に、当院循環器内科で術前評価を行い、心臓血管外科で僧帽弁手術を施行した患者のうち、左房拡大を認めて左房縫縮を要した患者さんを対象とします。比較対象は、2010年から2019年11月まで、左房縫縮術を取り入れる前に僧帽弁手術を施行した患者さんとしてします。
意義・目的	心房細動による心房性・機能性僧帽弁閉鎖不全症の原因の一つに後尖弁輪の歪み・ハムストリングが挙げられています。この歪みを改善するのに左房縫縮が有効であることが報告されていますが、まだデータ数が少なく、一般的な手技として広まっていません。当科では後尖弁輪の歪みを改善させるために左房縫縮術を術式に取り入れています。本研究の目的は、左房縫縮術を取り入れからの患者データと左房縫縮術を取り入れる前の患者データを比較検討し、左房縫縮術の有効性を評価することです。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 経胸壁心エコー検査、軽食道心エコー検査、造影CT検査から得られる左房径、左房容積、僧帽弁形状、僧帽弁輪角度、僧帽弁逆流率などを評価します。また、背景因子として患者性別、年齢、体重、既往歴、投薬歴、心房細動期間などを評価します。血液検査で血球数、肝機能、腎機能、凝固能、心不全マーカーなどを評価します。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel: 082-257-5215 広島大学病院 心臓血管外科 医科診療医 呉 晟名